



# 新 毎 日 新 聞

夕刊

2003年(平成15年) 7月10日 木曜日

## うわさ流し反体制派の動き把握

【バグダッド小倉孝保】イラクのフセイン政権下で国内外の反体制派取り締まりの中心だった国軍情報当局の調査員だった男性(29)がこのほど、毎日新聞のインタビューに応じ、スパイ活動の詳細を語った。情報当局にはクルド、イスラエルなどを対象にした部門のほか、うわさを流すことを専門に扱う部署が存在するなど、旧フセイン政権が反体制派をあらゆる手法で徹底監視した実態が浮き彫りになった。

### 語るスパイ元フセイン政権

元調査員は98年から昨年暮れまで4年間、バグダッド・カドミヤ地区の軍施設で勤めた。元調査員によると、軍情報当局は約40の部署に分かれ、第1部は各部署の情報集約▽2部は外国の衛星放送のチェック▽3部は対クルド▽4部は対イスラエル▽5部は対イスラム教シーア派とイラン▽6部はホテルでの電話盗聴など▽7部は対クウェート▽8部は対

トルコ人の諜報活動を行っていた。このほかに、うわさを流す特別な部署があり、フセイン元大統領の体調に関する情報などを流し、その伝わり方で反体制思想を持つ組織や個人の活動を把握していた。また、タクシー運転手や靴磨きに変装して情報収集を行う部署もあり、

主に外国人や軍人の動きを監視していた。元調査員は第3部に属した。同部にはアラブ人などの26人が在籍、クルド自治区内に協力者を作っていた。また、調査員としての月給は1方ディナール(600円)だったが、クルド自治区との検問所で勤務にあたり、

元調査員は「任務には常態で1日に100万ディナールの収入になることもあった。情報当局は80年代にイラク軍がクルド人に対し行った暴行行為や化学兵器使用に関するビデオテープなどを保存していたが、国連の大量破壊兵器査察再開が決まった昨年10月ごろ、幹部が一斉に自宅に持ち帰ったという。

### 運転手、靴磨き変装部署も

「たると、密輸を見逃すことで1日に100万ディナールの収入になることもあった。情報当局は80年代にイラク軍がクルド人に対し行った暴行行為や化学兵器使用に関するビデオテープなどを保存していたが、国連の大量破壊兵器査察再開が決まった昨年10月ごろ、幹部が一斉に自宅に持ち帰ったという。」